

市民実感度調査を実施しました

笠間市では、笠間市総合計画の中において、6つの政策と49の施策（取組み）を設定し、将来像である「**住みよいまち 訪れてよいまち 笠間 ～みんなで創る文化交流都市～**」の実現に向けて、さまざまな施策を展開しています。

施策の進行管理にあたっては、施策の達成度や成果を客観的に測るための目安として49の施策ごとに「市民実感度指標」を設定し、行政評価制度を活用した評価・検証を行い、その結果を今後のまちづくりに反映しています。

市民実感度調査は「市民実感度指標」の推移を確認するために平成23年度から行っており、施策に対する「市民実感度」と「施策重要度」についてアンケート調査を行っています。

今年度においても「土地利用・都市基盤」、「産業」、「健康・福祉」、「生活環境」、「教育・文化」、「自治・協働」の各施策について、53項目について調査を実施しました。

調査結果から分かることをいくつかご紹介します。

◆調査結果

- 市民実感度を昨年度と比較すると、各施策の実感度は平均で3%の伸びが見られ、各施策に対する理解や共感が徐々に高まっていると考えられます。特に「教育・文化」の分野が伸びていました。
- 施策重要度は全体的に高い数値となっており、市民の価値観が多様化し、さまざまな分野にわたってその施策に対するニーズ・重要度が高まっていることが分かりました。特に「健康・福祉」、「生活環境」分野の各施策の重要度の平均は90%を超えており、市民に身近な施策の施策重要度がより高くなっていることが読み取れました。
- 施策重要度と市民実感度のかい離が大きかったものは、「産業」分野の中で特に「農林業」、「商業」、「工業」、「雇用・労働環境」でした。これらの施策は重要と考えられているにもかかわらず、市民実感度が伴っていないことから、充実が求められていることが分かりました。

◆住みよいまち 笠間

今回は「住みごこち」と「定住意識」についてもお聞きしています。この設問については、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた「住みごこちが良い」とした回答の割合は全体の約7割、「住み続けたい」とした割合は8割弱と、笠間市に現在住んでいる方の定住意識は高いということが分かりました。

■住みごこち



■定住意識



現在、笠間市においては、少子高齢化や人口減少に歯止めをかけるために、笠間市創生総合戦略を策定し、広域交通環境、充実した医療・福祉施設、地域資源による交流人口といった強みを、定住人口や地域経済の活性化につなげていく取組みを進めています。今回の実感度調査結果もその取組みに反映させ、一生住みたいと思える笠間市をつくってまいりたいと考えます。

◆アンケートの概要

●調査の方法

- 調査地域 笠間市全域
- 対象者 市内に居住する満18歳以上の男女
- 対象者数 1,200人
- 抽出方法 住民基本台帳による無作為抽出
- 調査方法 郵送による調査票依頼

■提出方法

無記名提出：返信用封筒で返送

■調査期間

平成28年2月9日～2月26日

●回収状況

- 回収率 40.67% (488 / 1,200人)
- 性別構成比 男性：女性：無回答 42.21：57.38：0.41

詳しい調査結果については、市ホームページをご覧ください。（トップページ⇒「実感度」で検索）

【問合せ】企画政策課（内線553）